

Structure and Change in the Formation of Fall Risk Management Ability in Newly Recruited Nurses

著者	丸岡 直子
著者別表示	Maruoka Naoko
journal or publication title	博士学位論文要旨 論文内容の要旨および論文審査結果の要旨 / 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 (保健学専攻)
volume	平成19年4月
page range	13
year	2007-04-01
URL	http://hdl.handle.net/2297/19491

平成 19 年 2 月 20 日


博士論文審査結果報告書


学位授与番号 医博甲第 1862 号

学籍番号

氏名 丸岡 直子

論文審査員

主査(職名) 泉 キヨ子 (教授) 

副査(職名) 稲垣美智子 (教授) 

副査(職名) 島田 啓子 (教授) 

論文題名 Structure and Change in the Formation of Fall Risk Management Ability in Newly Recruited Nurses

新人看護師の転倒リスクマネジメント能力形成の構造とその変化

論文審査結果

論文内容の要旨

看護師の転倒防止に対するリスクマネジメント能力形成の構造とその変化を明らかにすることを目的に、新人看護師の就職後1年間に焦点をあて、就職後6か月と12か月における質的変化を縦断的に検討した。対象は一病院に就職した看護師28名であり、方法は半構成的面接を行い、Spladleyのエスノグラフィの分析手法を用いた。6か月と12か月の分析から、2つの時点の変化を検討するために対となるカテゴリを探索し、内容を比較検討した。さらに、Kolbの経験学習モデルの4要素を対比させた。その結果、6か月では、看護師は飛び込んできた情報から転倒を防ぐ方法による防止活動と転んだらただでは済まないと感じる根拠が示す経験、12か月では、転んだら責任が問われると感じる根拠などの自己評価から、ADLを拡大しながら転倒を防止するための機能を導きだしていた。つまり、看護師の転倒リスクマネジメント能力は、転倒発生の重大性の認識、能力の自己評価、転倒防止に求められる態度の明確化、転倒防止活動の4側面から形成されており、このプロセスを踏まえたかかわりの必要性が示唆された。

審査結果の要旨

この論文は新人看護師における就職後1年間の転倒防止に対するリスクマネジメント能力形成について質的帰納的方法で縦断的に追究し、4側面の視点を明らかにしたことが独創的である。

公開審査の質疑応答はその内容、態度は的確かつ論理的であった。

以上より、本論文が博士(保健学)の学位を授与することに値するものであり、保健学における研究を自立して行うことに必要な研究能力を有すると認め、論文審査を合格と判定した。